年間授業計画　新様式例

高等学校 令和6年度（１学年用） 教科　芸術　　科目　書道Ⅰ

教　科：芸術　　科　目：書道Ⅰ　　単位数：　2　単位

対象学年組：第　１学年　A　組～　B　組

教科担当者：（A・B組：　　）

使用教科書：（書道Ⅰ　東京書籍　　）

教科　芸術　　の目標：

【知識及び技能】芸術に関する各科目の特質について理解し、表現するための技能を身につけようとする。

【思考力、判断力、表現力等】芸術とその表現について深く味わったり、創造的な表現をしようとすることができるようにする。

【学びに向かう力、人間性等】生涯にわたり芸術を愛好する心を培い、豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

科目　書道Ⅰ　　の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
・書の創造的な諸活動(知識・表現・鑑賞)を通し、書の歴史・文化と現代的な意義について理解を深める。 ・漢字や仮名の成り立ちを理解し、文字と書の変遷について理解を深める。	・書写能力と表現力への理解を深めると共に、書の創造的な諸活動を通じて、考察する力や表現をする力を身につける。	・書の良さや奥深さを認識し、学んだ内容を諸活動の中で活用しようとする態度や、書を通じて養った感性を持った人間性を育む。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	表現 漢仮	表現 漢	表現 仮	鑑賞	評価規準	知	思	態	配当時数
前期	書道で学習すること 書写から書道へ 【知識及び技能】 用具・用材の特徴と表現効果との関わりと、用筆・運筆から生み出される書の表現性 【思考力、判断力、表現力等】 生活や社会社会における書の効用 【学びに向かう力、人間性等】 主体的に高校書道の幅広い表現の 学習に取り組む	・書道の三分野（漢字の書・仮名の書・漢字仮名交じりの書）と、臨書・鑑賞・創作という学習方法があることを理解する。 ・小・中学校国語科書写と高校書道の学習の違いを理解する。 ・国語科書写で学習した内容（筆使い・字形など）を確認する。		○		○	【知】 ・芸術科書道で学習することを理解している。 ・小・中学校国語科書写で学習した内容を理解している。 【思】 国語科書写で学習した楷書の用筆を理解している。 【学】 ・高校書道での学習を主体的に取り組んでいこうとする態度を養っている。小・中学校書写で学習した内容を主体的に振りかえっている。	○	○	○	10
	漢字の書 楷書 【知識及び技能】 書風と古典に基づく基本的な用筆・運筆 【思考力、判断力、表現力等】 古典の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想・工夫 【学びに向かう力、人間性等】 楷書のよさや美しさを感受し、主体的に楷書の幅広い表現・鑑賞の学習に取り組む	・楷書の用筆、運筆、結構や字形の取り方について理解し、技法を習得する。 ・古典を臨書する意義について理解する。 ・唐の四大家の楷書作品の臨書から書風違いを理解し、技法を習得する。		○		○	【知】 臨書を通して唐の四大家の楷書作品の字形や線質・点画の特徴を理解し、それを表現するための用筆・運筆の技法を理解している。 【思】 鑑賞を通して唐の四大家の楷書作品の書風とそれを形成する表現の要素を理解し、臨書に生かしている。 【学】 唐の四大家の楷書作品に関心を持ち、その美を味わおうとしている。	○	○	○	12
後期	仮名の書 【知識及び技能】 古典に基づく基本的な用筆・運筆、線質を生かした表現 【思考力、判断力、表現力等】 古典の書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成 【学びに向かう力、人間性等】 仮名の書のよさや美しさを感受し、主体的に仮名の書の幅広い表現・鑑賞の学習に取り組む	・仮名の成立について理解する。 ・仮名の基本的な用筆・運筆を理解し、習得する。 ・平仮名の字源を知り、正確に字形を捉える。 ・変体仮名について理解する。 ・「高野切第三種」を鑑賞し、典型的な仮名の美を感じ取る。			○	○	【知】 「高野切第三種」の臨書を通して、平仮名・変体仮名の字形や線質、連綿の法則を理解し、それを表現するための用筆・運筆の技法を理解している。 【思】 鑑賞を通して、平仮名の字形や線質、変体仮名の多様性を理解し、臨書に生かしている。 【学】 仮名に関心をもち、典型的な古典作品である「高野切第三種」の美しさを味わおうとしている。	○	○	○	14
	漢字仮名交じりの書 【知識及び技能】 漢字と仮名の調和した線質による表現と目的や用途に即した効果的な表現 【思考力、判断力、表現力等】 漢字と仮名の調和した字形、文字の大きさ、全体の構成と意図に基づいた表現 【学びに向かう力、人間性等】 書のよさや美しさを感受し、主体的に幅広い表現・鑑賞の学習に取り組む	・漢字仮名交じりの書の特徴を理解する。 ・漢字仮名交じりの書の作例を鑑賞し、漢字と仮名の調和や自由な紙面構成などの表現の特徴を確認する。 ・試作を重ね、表現を工夫し、作品を仕上げる。	○			○	【知】 漢字仮名交じりの書の特徴を理解している。 【思】 表現のねらいを明確に定め、古典や古筆の学習を通して習得した知識・技能を生かした構想を練っている。創作した作品を互いに鑑賞し、批評し合うことで、表現の意図と技法の効果について工夫している。 【学】 漢字仮名交じりの書の創作に関心をもち、主体的に取り組んでいる。	○	○	○	6 合計 42